

グループワークについて

1. 目的

第2次計画の推進にあたり、行政・関係団体が取り組むべき内容について共有・議論し、それぞれが「自分事」として考え、検討することで、第2次計画をより実効性のある計画とする。

2. 前回（令和6年7月）の協議会での話し合いの結果

A グループ（生涯を通じた健康づくり）

テーマ：「子どもたちの健康を守るためにできること」

- ・気候に左右されず安心安全に遊べる場所の環境整備
- ・宇治市ならではのお茶を通じた食育について伝えていく
- ・小中学校では、1人1台のタブレット貸与があるという強みを生かし、ゲーム感覚で健康知識や電子メディアとの付き合い方を学べるような仕組みづくり

B グループ（社会全体で健康を支えるつながりづくり）

テーマ：「壮年期（働き盛り世代）が自分らしく健康的に過ごしてもらうためにできること（心と体について）」

- ・「脱！健康」をキーワードに、普通に過ごすだけで自然に健康になれる宇治市を目指して、環境づくりを進める
- ・楽しんで健康になれることが重要

C グループ（社会全体で健康を支えるつながりづくり）

テーマ：「壮年期（働き盛り世代）が自分らしく健康的に過ごしてもらうためにできること（食環境について）」

- ・宇治市はスーパーが多く、飲食店、総合病院、栄養士を養成する学校、若葉の会、農作物もなどの地域資源が多い→積極的に活用していく。
- ・バランスのよい食事のポスターの掲示や、栄養士監修メニューや、健康的な定食メニューを提供する飲食店の増加。
- ・健康的なメニューを選んで食べてもらったら、ポイントが付くなどのインセンティブの付与。
- ・大人向けの食のイベントが少ないため、医療機関などに協力してもらい、働き盛り世代を対象としたイベントを開催する。これを進めるためには職域との連携が必要。

3. 今後のグループワークで行うこと

- ・本市の主な4つ健康課題と、健康格差についてのロジックモデルを作成しているため、これまでの話し合われた結果も踏まえて、具体的な取組について検討。
- ・話し合われた結果に基づき、ロジックモデルを具体化し、関係団体の意見も聞きながら、ロジックモデルを完成。

4. 本日のグループワークの内容

テーマ

A グループ（健康格差の縮小グループ）

テーマ：「重点的な取組地域での健康づくり（肥満やメタボ対策など）の推進について」

検討内容：ロジックモデル⑤のやるべきこと（取組）を検討する
（例）ウォーキングアプリを活用した運動習慣の醸成など

B グループ（職域（企業）との連携グループ）

テーマ：「職域（企業）と連携した壮年期（働き盛り世代）の健康づくり～若い世代の健康意識を高めるための取組～」

検討内容：ロジックモデル①～③のやるべきこと（取組）を検討する
（例）企業と連携した取組や実態調査など

C グループ（つながりグループ）

テーマ：「全世代が地域や人をつながりたくなる場づくりや仕組みづくりについて」

検討内容：ロジックモデル④のやるべきこと（取組）を検討する
（例）食通じたつながりの場の増加など

検討内容

- ①テーマに沿って、行政・関係団体がやるべきこと（ロジックモデルのインプット（やるべきこと））を中心に検討

【検討のポイント】

- ・ターゲットは誰か
- ・目標達成のため、効果的な取組か
- ・逆に健康格差を広げることになっていないか
- ・優先的に取り組むことは何か
- ・どのように他団体と連携すればよいか など

- ②ロジックモデルの具体化

- ③テーマに関し、行政・関係団体（アライアンス等）に検討してほしいこと
（次年度5月の関係団体、主任合同ワークショップに向けて）

担当：Bグループ
(職域との連携グループ)

インプット(やるべきこと)		インプットに求める成果	アウトプット	アウトカム(達成したいこと)		インパクト
行政	関係団体			短期アウトカム	長期アウトカム	
・特定健診・保健指導の実施率向上対策(広報強化) ◆企業との連携により、職域での健康づくりを支援	・健康経営の推進による社員への普及啓発(企業) ◆健診(検診)を受診しやすい環境の整備(企業)	健康への意識が高まり、定期的に健診を受け、健康管理をしている人が増える。	・特定健康診査の実施率 ・特定保健指導の実施率 ・きょうと健康づくり実践企業認証制度の認証企業数			★健康寿命の延伸
◆それぞれの生活実態に合わせた「食材」「惣菜」の選択方法など、食に関する正しい情報の提供	◆健康志向(適正なエネルギー量)の惣菜やメニュー等を提供する店舗・飲食店の増加(飲食店・企業) ◆自食を選択することができるよう、分かりやすい食品表示に努める(飲食店・企業)	市民が適正なエネルギー量の食品を選択することにつながる。	・スマートミール認証事業等の認証獲得数(飲食店・企業)	★「朝食を毎日食べている人(3歳児・小学5年生・中学2年生・16歳以上)」の増加 ★「主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上、ほぼ毎日食べている人(小学5年生・中学2年生・16歳以上)」の増加 ★「ふだんから歩くことに努めている人(16歳以上)」の増加 ★「1日30分以上の運動習慣のない人」の減少	★「肥満の人の割合(壮年後期男性・壮年後期女性)」の減少 ★「メタボリックシンドロームの該当者・予備群」の減少	
◆インセンティブのあるウォーキングアプリの活用等楽しみながら運動できる取組の実施 ◆関係団体等と協働した、運動習慣の定着のための環境整備	◆多世代が気軽に参加できる運動機会の増加(地域団体)	アプリ等をきっかけに運動習慣の醸成につながる。	・ウォーキングアプリの登録者数の増加			
・イベント、WEBサイト、SNS、広報誌等での啓発活動 ◆SNSの活用などターゲットに合わせた普及啓発 ◆健康に関する情報の集約と発信 ・関係団体の好事例の取組の情報収集・発信 ・専門職による健康教育の実施	・健康教育、健診の実施(学校) ・健康教室、イベント、WEBサイト、SNSでの啓発活動(地域団体) ・健康講座やイベントの開催(医療機関、地域団体) ◆地域で身近で気軽に相談できる場の増加(健康や食の専門家等)(地域団体)	戦略的な広報や身近な相談場所の増加により、健康に関心が薄い人を含めた多くの人に健康情報を届けることができる。	・健康づくり・食育イベントの実施回数・参加人数(肥満・メタボリックシンドローム対策関連) ・65歳未満対象の健康教室の実施回数(肥満・メタボリックシンドローム対策関連) ・宇治市健康づくり・食育アライアンス加入団体数			

「職域(企業)と連携した壮年期(働き盛り世代)の健康づくり～若い世代の健康意識を高めるための取組～」をテーマに、今後の行政・関係団体の取組内容について、グループワークにて検討

ロジックモデル②

課題「がんによる死亡割合の減少」

担当：Bグループ
(職域との連携グループ)

- 重点施策1 働き盛り世代の健康づくりの習慣化に向けたセルフマネジメントの推進
- 重点施策2 戦略的な普及啓発・広報強化

インプット(やるべきこと)		インプットに求める成果	アウトプット	アウトカム(達成したいこと)		インパクト
行政	関係団体			短期アウトカム	長期アウトカム	
◆広報活動の強化や関係機関との連携により、受診率向上のための取組(受診勧奨など)、受診しやすい環境づくりの推進 ◆関係機関等と連携した、女性特有のがん検診の受診率向上のための受診勧奨を実施	◆がん検診を受診しやすい環境の整備(企業)	定期的ながん検診を受け、健康管理をしている人が増える。	・がん検診の受診率 ・がん検診の精密検査受診率	★「望まない受動喫煙の機会がある人(小学5年生・中学2年生・16歳以上)」の減少	★「がんによる死亡割合」の減少	★健康寿命の延伸
・イベント、WEBサイト、SNS、広報誌等での啓発活動 ◆がん予防の知識やがん検診の有効性についての普及啓発 ◆たばこの害や受動喫煙に関する知識の普及啓発	・市民への啓発活動(地域団体) ◆受動喫煙防止対策を行う施設の増加	がんに対する正しい情報を得て、行動することができる。	・がん周知・啓発イベントの実施回数 ・普及啓発実施回数(イベント、WEBサイト、SNS、広報誌等)	・「定期的ながん検診を受診する人」の増加※1		

- ★ 計画の目標項目として設定している項目
- ※1 健康づくりに関するアンケート(令和5年)
- ※2 人口動態統計 死因別死亡割合(令和4年)

「職域(企業)と連携した壮年期(働き盛り世代)の健康づくり～若い世代の健康意識を高めるための取組～」をテーマに、今後の行政・関係団体の取組内容について、グループワークにて検討

ロジックモデル③

課題「高血圧の発症予防・重症化予防」

担当：Bグループ
(職域との連携グループ)

- 重点施策1 働き盛り世代の健康づくりの習慣化に向けたセルフマネジメントの推進
- 重点施策2 戦略的な普及啓発・広報強化

インプット(やるべきこと)		インプットに求める成果	アウトプット	アウトカム(達成したいこと)		インパクト
行政	関係団体			短期アウトカム	長期アウトカム	
◆全世代への適塩の推進 ・イベント、WEBサイト、SNS、広報誌等での啓発活動 ◆健康に関する情報の集約と発信 ・関係団体の好事例の取組の情報収集・発信 ・専門職による健康教育の実施 ・定期的な高血圧予防講演会の開催(行政、医療機関連携)	・健康教育、健診の実施(学校) ・健康教室、イベント、WEBサイト、SNSでの啓発活動(地域団体) ・健康講座やイベントの開催(医療機関、地域団体) ◆地域で身近で気軽に相談できる場の増加(健康や食の専門家等)(地域団体)	戦略的な広報や身近な相談場所の増加により、健康に関心が薄い人を含めた多くの人に健康情報を届けることができる。	・特定健康診査の実施率 ・特定保健指導の実施率 ・高血圧について普及啓発実施回数(イベント、WEBサイト、SNS、広報誌等) ・65歳未満対象の健康教室の実施回数(高血圧・適塩関連) ・宇治市健康づくり・食育アライアンス加入団体数	★「1日30分以上の運動習慣のない人」の減少 ・「毎日血圧測定する人」の増加※1	★「塩分摂取量(16歳以上)」の減少 ★「高血圧の改善(収縮期血圧130mmHg以上)」	★健康寿命の延伸
◆インセンティブのあるウォーキングアプリの活用等楽しみながら運動できる取組の実施	◆多世代が気軽に参加できる運動機会の増加(関係団体)	アプリ等をきっかけに運動習慣が付き、高血圧予防・重症化予防につながる。	・ウォーキングアプリの登録者数			
◆健診受診の必要性についての普及啓発 ◆企業との連携により、職域での健康づくりを支援	◆健診(検診)を受診しやすい環境の整備(企業) ・仕事と治療の両立の支援(企業)	健康管理をしている人が増える。	・きょうと健康づくり実践企業認証制度の認証企業数			

- ★ 計画の目標項目として設定している項目
 ※1 健康づくりに関するアンケート(令和5年)
 ※2 人口動態統計 死因別死亡割合(令和4年)

「職域(企業)と連携した壮年期(働き盛り世代)の健康づくり～若い世代の健康意識を高めるための取組～」をテーマに、今後の行政・関係団体の取組内容について、グループワークにて検討

ロジックモデル④

課題「地域とのつながりが強いと思う人の増加(全世代)」

担当：Cグループ
(つながりグループ)

- 重点施策3 健康データの見える化
- 重点施策4 つながりづくりによる職域も含めた「宇治まるごと健康づくり」

インプット(やるべきこと)		インプットに求める成果	アウトプット	アウトカム		インパクト
行政	関係団体			短期アウトカム	長期アウトカム	
・うじスマートウェルネス推進事業(健康データ・地域分析)の実施	・地域の健康課題共有のためのワークショップの実施(地域団体・行政)	地域の健康課題を市民、地域、行政が共有できる。	・ワークショップの実施回数			
・地域で集える場等の情報収集・発信 ◆子育て世代がつながり、交流できるよう、地域子育て支援拠点等の地域資源の情報提供 ◆健康づくりや食に関する地域ネットワークの強化	◆身近で人とのつながりが持てる環境づくり(地域団体) ◆健康づくりに活用できる場(施設や地域コミュニティ)の増加(地域団体) ◆様々な世代・場所で共食の機会の増加(地域団体)	食や防災など、多様な取り組みを取り入れ、身近な場所で多世代共生の居場所づくりを支援し、人と人、人と地域がつながり活躍することができる。	・宇治市健康づくり・食育アライアンス加入団体数 ・宇治市食生活改善推進員協議会「若葉の会」会員数 ・健康づくりや食に関するイベントの開催回数	★「地域活動に参加している人(65歳以上)」の増加 ★「生きがいや趣味のある人(16歳以上)」の増加 ★「週に3日以上、家族そろって朝食または夕食を食べている人(3歳児・小学5年生・中学2年生)」の増加	★「地域とのつながりが強いと思う人(16歳以上)」の増加	★健康寿命の延伸
◆フレイルや健康管理についての知識の普及啓発 ◆地区組織活動及び自主グループの育成・支援	・高齢者の通いの場づくり(地域) ・介護予防に活用できる場の増加(地域団体) ◆食や余暇活動等を通じたつながりの場や機会の増加(地域団体)	地域住民が主体の活動の支援により、身近な場所で介護予防に取り組める。	・通いの場の増加 ・自主グループの育成数 ・出前講座(65歳以上)の実施回数	★週3日以上、家族や友人と一緒に食事をする人(16歳以上)の増加		

★ 計画の目標項目として設定している項目

「全世代が地域や人とつながりたくなる場づくりや仕組みづくり」をテーマに、今後の行政・関係団体の取組内容について、グループワークにて検討

ロジックモデル⑤

課題「肥満の人の割合の地域内格差の縮小」

担当：Aグループ
(健康格差の縮小グループ)

- 重点施策1 働き盛り世代の健康づくりの習慣化に向けたセルフマネジメントの推進
- 重点施策2 戦略的な普及啓発・広報強化

インプット(やるべきこと)		インプットに求める成果	アウトプット	アウトカム(達成したいこと)		インパクト
行政	関係団体			短期アウトカム	長期アウトカム	
・うじスマートウェルネス推進事業(健康データ・地区分析)の実施	・重点地域での健康課題共有のためのワークショップの実施(地域団体・行政)	地域の健康課題を市民、地域、行政が共有できる。	・ワークショップの実施回数(重点地域) ・新規事業数(重点地域)			
・特定健診・保健指導の実施率向上対策(重点地域での広報強化) ・企業との連携により、職域での健康づくりを支援(重点地域で実施)	・健康経営の推進による社員への普及啓発(企業) ◆健診(検診)を受診しやすい環境の整備(企業)	健康への意識が高まり、定期的に健診を受け、健康管理をしている人が増える。	・特定健康診査の実施率(重点地域) ・特定保健指導の実施率(重点地域)	★「運動週2回以上未実施の人の割合」の地域格差の縮小 ★「歩行1日1時間未満の人の割合」の地域格差の縮小	★「肥満の人の割合(壮年後期男性・壮年後期女性)」の減少 ★「メタボリックシンドロームの該当者・予備群」の減少 ★「BMI25以上の人の割合」の地域内差の縮小	★健康寿命の延伸 健康格差の縮小
・企業へのウォーキングアプリの参加勧奨(重点地域) ・ウォーキングアプリ登録会、健康測定会、スポーツイベントの開催(重点地域)	・宇治市健康づくり・食育アライアンス等の地域団体によるスポーツイベント等の実施(重点地域)	アプリ等をきっかけに運動習慣の醸成につながる。	・ウォーキングアプリの登録者数(重点地域) ・ウォーキングアプリで歩数が増加した人の割合(重点地域) ・スポーツイベント等の開催回数(重点地域)			

- ★ 計画の目標項目として設定している項目
※1 健康づくりに関するアンケート(令和5年)
※2 人口動態統計 死因別死亡割合(令和4年)

令和6年度～榎島圏域を重点地域とし、重点的にアプローチしているが、今後の榎島圏域での「肥満・メタボ対策など」の行政・関係団体の取組内容について、グループワークにて検討